

手引き作成等による津波浸水想定の設定への支援



河川研究部 海岸研究室 室長 諏訪 義雄 主任研究官 加藤 史訓

(キーワード) 津波浸水想定、津波防災地域づくり、最大クラスの津波、津波浸水シミュレーション

1. 概要

「津波防災地域づくりに関する法律」に基づき都道府県知事が津波浸水想定を設定することを支援するため、水管理・国土保全局海岸室とともに、津波浸水シミュレーションやその活用方法を中心にとりまとめた「津波浸水想定の設定の手引き」を平成24年2月に公表するとともに、都道府県に対して技術的助言を行っている。

2. 「津波浸水想定の設定の手引き」の概要

津波浸水想定は、最大クラスの津波を想定した津波浸水シミュレーションにより予測される浸水の区域および水深を設定するものである。

本手引きの主な記載内容は以下の通りである。

- ・津波浸水想定の設定は、最大クラスの津波の設定、計算条件の設定、津波浸水シミュレーション、浸水の区域及び水深の出力、の手順で実施する。
- ・最大クラスの津波は、地域海岸ごとに、過去に発生した津波の実績津波高及びシミュレーションにより想定した津波高、発生が想定される津波の津波高などから津波高が最も大きい津波を設定する。ここで地域海岸とは、海岸保全基本計画の作成単位を、湾の形状等の自然条件、実績またはシミュレーションの津波高から、同一の津波外力を設定しようと判断される一連の海岸に分割したものをいう。
- ・津波の初期水位を与える断層モデルは、中央防災会議や地震調査研究推進本部等の公的な機関が妥当性を検証したものとして発表している断層モデルがあればこれも参考にして設定することができる。
- ・津波浸水想定を設定するための津波浸水シミュレーションを実施する際には、「災害には上限がない」ことを教訓に、「なんとしても人命を守る」という観点から、最大クラスの津波が悪条件下において発生し浸水が生じることを前提に、地震や津波による

各種施設の被災を考慮することを基本とする。

・陸域への津波遡上による浸水状況がわかるように、津波浸水シミュレーションの結果として、津波浸水想定に定めるべき最大の浸水の区域や水深などを出力するものとする。

なお、津波浸水想定のための作業を通じて把握された課題を解決するため、地震や津波に対する各種施設の条件設定などに関する解説を充実させるなど、その後、本手引きの更新を3回（平成24年3月、4月、10月）行っている。

3. 「津波浸水想定の設定の手引き」の活用状況

本手引きの作成と合わせて、津波浸水シミュレーションの相談窓口を国総研海岸研究室に設置するとともに、都道府県、建設コンサルタントを対象とした説明会を平成24年2～3月に実施した。また、平成24年4月以降、津波浸水想定の設定における技術的な課題を解決するため、全国の沿岸を10ブロックに分けて、関係する都道府県及び地方整備局の担当者を集めて意見交換会を行う一方、各都道府県の個別相談に応じている。平成25年1月現在、本手引きを活用して、茨城県、青森県（一部沿岸のみ）、徳島県、高知県が津波浸水想定を設定しており、他の都道府県においても順次作業を進める予定となっている。

【参考】

- 1) 津波浸水想定の設定の手引き
http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/bousai/sai gai/tsunami/shinsui_settei.pdf
- 2) 茨城県津波浸水想定
<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/doboku/01class/class06/kaigan/tsunamisinnnsui/l2shinsui.html>
- 3) 青森県津波浸水想定
http://www.pref.aomori.lg.jp/kotsu/build/tunami-sinsuis_outei.html
- 4) 徳島県津波浸水想定
<http://anshin.pref.tokushima.jp/docs/2012121000010/>
- 5) 高知県津波浸水想定
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/170201/tsunamimap.html>